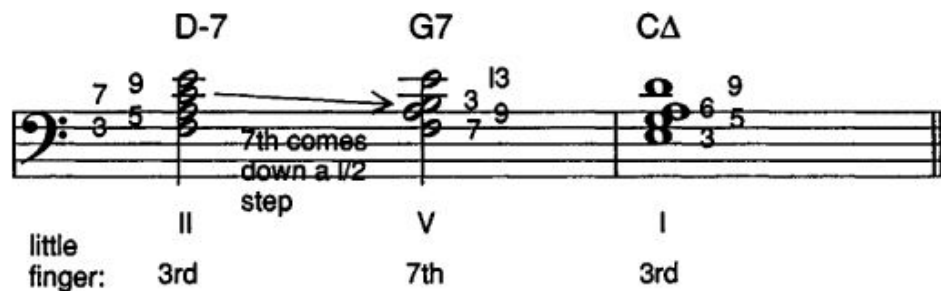


## CHAPTER 5 Left-Hand Voicing

左手でコードのボイスングをすると右手にメロディーや即興演奏の自由が与えられます。1950年代半ばにレッド・ガーランドによって演奏されビル・エヴァンスとウィントン・ケリーはそれをさらに発展させました。それ以前のビバップピアニストは2音または3音のルート・ポジションのボイスを演奏していました



D-7、G7alt、またはCΔのコードいずれもそのボイスングにルートを持っていません。Cメジャー7thのコードにはメジャー7thもありません！左手ボイスングは柔軟性があります。あなたはルートを演奏することから解放され9thと13thを含むコード演奏を可能にします。コードにルートがないことを心配する必要ありません。リズムセクションで演奏する場合、ベースプレイヤーがコードのルートを演奏します、ジャズピアニストはソロピアノを演奏するときにもこれらのボイスを使用します。



CメジャーキーのII-V-Iのコード進行でのD-7のレフトハンドボイスングは、D-7の3rd、5th、7th、9thのF-A-C-Eです。このコードはFA7コードのように見えますが、これはルートレスボイスングです。右手でルートを弾いてD-7のコードであることを確かめてください。

3ノートボイスングのII-Vを覚えていますか？ 7thは半音下の次のコードの3rdになります。レフトハンドボイスングでD-7がG7のコードに進行した時も同じです。7thのCだけが半音下でG7のコードの3rd、Bに進行します。その時G7のボイスングは7th、9th、3rd、13thになります。右手でルートGを弾いてコードがどのように鳴るかを聞きます。

次のコードCΔでは左手で3rd、5th、6th、および9thをボイスングします。